

「被災五十八周年三・一ビキニデー全国集会」にあたり、ご挨拶を申し上げます。

本市焼津港所属の第五福竜丸が、アメリカ合衆国の水爆実験により被災してから五十八年が経過しました。以来、今日まで、ここにお集まりの皆様をはじめとする、世界各国の多くの人達による熱心な核兵器廃絶運動にもかかわらず、地球上に二万二千を超える核兵器が存在していることは、本当に残念でなりません。

昨年三月十一日に東北地方を襲った東日本大震災は、津波による多大な被害と福島第一原子力発電所の事故をもたらし、日本中を震撼させました。被災者の皆様方はいまだ古里に戻ることができず、目に見えない放射線に不安な毎日を過ごされていることと思います。一日も早い復興を願ってやみません。

第五福竜丸事件の当時も、フクシマと同様に被曝の恐怖、風評被害、経済危機があり、「核の恐怖」が世界的な平和運動のきっかけとなりました。私達は今一度ビキニ事件を胸に刻まなければなりません。

昨年夏、私は焼津市議会議長とともにマーシャル諸島ビキニ環礁自治体を訪問し、現地の方々に水爆実験当時の話を伺う機会を得ました。残留放射線による帰島したくてもできない、体をむしばまれていく恐怖は今も消えることがないといひ、現在も苦悩の色が伺えます。核兵器と人類は決して共存できません。私達は、平和を求め核兵器を廃絶するべきです。

焼津市は、「第五福竜丸事件六・三〇市民集会」「焼津平和賞」を主催し、第五福竜丸事件を継承し、核兵器の廃絶と恒久平和を訴え続けています。平和を愛する心を育て、次世代に継承していくことは、市としての使命であると考えています。また、平和市長会議、非核宣言自治体協議会の一員として、共に平和運動を展開し、世界平和の実現のために取り組んでいきます。

結びに、皆様方の運動が大きな力となり、「核兵器のない地球」の実現につながりますことを念願いたしますとともに、お集まりの皆様のご健勝を心から祈念し、ご挨拶いたします。

二〇一二年三月一日

焼津市長 清水 泰